【障害学会報告要旨】

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　県民会議副議長、条例の会代表

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　長位鈴子

１、自己紹介

２、障害者を医学モデル(自分の責任）から自分の意識を変える力にかけてきて40年以上かかってきた力(社会モデル）

３、なぜ分離されなければならないのか、誰が誰の為に政策・福祉であるのだろうか。

福祉従事者の中には時代や職場内の意識を正しいと信じ、平然と何十年前の価値観がとおる時代。逆行しても組織で言えない現実の問題。

人の常識に振り回されて障害者は個人の責任かのように思わされる現在。

虐待も繰り返し起こる事に対して、私たち一人ひとりも考え行動しなければならないはずが、日常的な忙しさを言い訳にしていないでしょうか。

障壁があることは社会全体の問題。人はだれもが尊い人権があること、どれだけの人が活動や運動に賛同しているのだろうかと気になります。

４、「地域で皆と同じように生きたいだけ」

・幸せは日々の生活の中から感じる人生でありたい。

・日本の情勢や福祉予算で社会の隅に置かれる人たちにも同じように人権があることを、これからの次代や社会を変える人たちの育成が急務であると感じます。